

『神奈川県史』を学ぶ会・幕末開港編会報記録一覧

(1988年2月～1993年5月)

号数	発行	執筆者	内 容	例 会
049	88.03	植山 淳	(海防策の推移)	88.02
049	88.03	伊東富昭	幕末期の海防をめぐって (1)	88.03
050	88.04	伊東富昭	幕末期の海防をめぐって (2)	88.03
050	88.04	青山永久	異国船来航への対応と反響	88.04
052	88.05	内田修道	相州における会津藩の統治	88.05
052	88.05	岩橋清美	会津藩の相州沿岸警備警備について	88.05
053	88.06	青山永久	沿岸警備と相武農村	88.06
053	88.06	奥田和美	川越藩による相州沿岸警備の開始	88.06
054	88.08	伊東富昭	川越藩による相州支配	88.07
056	88.10	内田修道	川越藩の相州支配	88.09～10
059	89.01	内田修道	天保期川越藩の相州支配	89.01
060	89.02	青山永久	海防の実態—使用された船について—	88.10～11
062	89.04	植山 淳	弘化二年二月の米国船渡来について	89.02
062	89.04	伊東富昭	デンマーク船渡来一件	89.04
063	89.05	奥田和美	相州警衛の再編成—彦根藩の登場—	89.05
065	89.07	奥田晴樹	海防の社会的費用	89.06
066	89.09	松田隆行	嘉永二年閏四月イギリス軍艦マリナー号の来航をめぐって	89.07
066	89.09	奥田晴樹	海防の社会的費用 (承前)	89.06
067	89.10	内田修道	イギリス軍艦マリナー号事件以後の川越藩の動向	89.09
069	89.12	大湖賢一	台場築造と「海防」意識	89.11
069	89.12	伊東富昭	彦根藩の相州警衛参入による川越藩への影響	89.12
071	90.02	伊東富昭	海防の先端・川越藩の苦悩	89.12
071	90.02	青山永久	(彦根藩の海防着任)	90.01
072	90.03	奥田和美	彦根藩の相州警衛	90.02
072	90.03	植山 淳	(今後の学習方針について)	90.03
073	90.04	松田隆行	川越藩相州分領における地方支配の特質	90.04
074	90.05	松田隆行	海防着手段階における川越藩	90.05

号数	発行	執筆者	内 容	例 会
075	90.06	内田修道	社会政策と苗字・帯刀附与—近世国家における公と私—	90.06
076	90.07	伊東富昭	川越藩支配下の逗子	90.07
079	90.11	大湖賢一	モリソン号事件と川越藩	90.09
080	90.12	奥田和美	川越藩の海防	90.10
081	91.01	青山永久	(川越・彦根藩の海防)	90.12
082	91.02	奥田晴樹	海防と川越藩の相州地方支配	90.11
084	91.04	松田隆行	海防をめぐる幕府—藩関係と惣代層の役割	91.01
086	91.06	内田修道	「国辱」意識の形成と統治形態変更への契機	91.02
086	91.06	奥田和美	ペリーに対する現地の対応と幕府の動き	91.06
087	91.07	植山 淳	対外的危機感の中で	91.03
087	91.07	伊東富昭	海防最前線、浦賀奉行与力の意識	91.04
088	91.09	青山永久	日米和親条約をめぐる	91.07～09
090	91.10	内田修道	「御飭」と「武威」—ペリー来航への対応意識の特質—	91.10
091	91.11	大湖賢一	黒船来航と村の動員	91.10
091	91.11	松田隆行	研究例会の現状と問題点	91.11
093	92.01	伊東富昭	ペリー再来をめぐる	91.12
093	92.01	奥田和美	開港前夜における幕府の民衆動員	92.01
096	92.04	松田隆行	「申渡」からみた幕末	92.02
096	92.04	青山永久	人心の不安のあらわれ	92.04
098	92.06	内田修道	民衆にとっての異船渡来	92.06
102	92.11	奥田晴樹	海防と梵鐘の供出	92.10
104	93.01	松田隆行	ペリー来航をめぐる情報の伝播と幕府の権威	92.12
106	93.03	大湖賢一	彦根藩の相州警衛再検討の必要性	93.01
107	93.04	奥田和美	ペリー来航と諸藩・旗本の出兵	93.02
110	93.07	青山永久	ペリー来航と沿岸警備	93.04
111	93.09	伊東富昭	ペリー艦隊の退帆	93.05